

ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう
 すべての人間の尊厳を重んじよう
 教育・科学・文化の発展に努めよう
 民族間の疑惑と不信を除こう
 世界を友愛と信頼のきずなで結ばう

第二次訪中で友好促進

識字教育を現地に学ぶ

広島と北京のユネスコ協会を
 結ぶ友好姉妹協定に基いて今年

十月、二回目の代表団が中国を
 訪問、中国各地で友好、親善を
 深めるとともに、国連が一九九
 〇年を「国際識字年」と定めた
 スローガンにふさわしい成果を
 挙げて先ごろ帰国しました。

広島ユネスコ協会からの参加

者は、日本訪中団の副団長とし
 て深崎敏之・広島ユネスコ協会
 太鼓矢晋・同常任理事、末野忍

同常任理事の三名で、これを含
 む訪中団の一行六名は、十月十

八日、大阪を出発、二十八日ま
 での十一日間、上海、西安、内

モンゴル、北京の教育機関を、
 識字教育を視点を据えて視察し、

各地で熱烈な歓迎を受けました。
 また、広島ユネスコ協会と姉

妹縁組をしている北京市ユネス
 コクラブ(陶西平会長)に対し

て、広島代表団は、広ユ協制作
 のスライド構成「山鳥、海を渡

る 広島県帝釈小学校・遼寧省
 盤錦小学友好の歩み」を文化資

料交換の一環として贈りました
 (写真参照)。

今回の訪中は、日中間ユネ
 スコ交流計画に基いて一九八八
 年に広島・岐阜ユネスコ協会と
 北京市ユネスコクラブとの間で
 締結された姉妹協定により隔年
 相互訪問の一環として行われた
 ものです。

国際識字年
中国訪問記

副会長 深崎敏之

ここ数年、中国はユネスコを

はじめとする国際機関等からの
 協力と援助で教育が普及し、農

業も科学的方法がとり入れられ
 るようになり、年間収入も徐々

に上昇している。一九九〇年十
 月二十日の中国共産党の中央機

関紙、人民日報によれば、中国
 国家教育委員会は、約二億二千
 万人の非識字者がいるので識字

教育を推進するため、教育セン

ターを設置する予定であると述

べている。困ったことは、非識

字者の90パーセントが僻地に居

住し、70パーセントが女性とい

うことである。

その解決方法として、教師の
 研修、教師の活動範囲を拡大す

るための交通手段の改善、非識
 字者へ、識字の重要さをいかに

伝達するか。識字教育のための
 広範囲にわたる施設の建設等

である。

われわれに相談があったのは、
 とにかく財政的援助がほしい、

単車一台でもよいから送って貰
 いたいということであった。

上海、北京といった大都市で
 はエリート養成教育が、大きな

目標で、重点小学、重点中学と
 いったコースに進むことに重点

が置かれているようである。教
 科課程も外国語、数学、理科に

重点が置かれ、若い熱心な教師
 が指導にあたっていた。
 上海中学は全寮制で、夜は教

室で教師が教壇にある椅子に座
 って監督して自習をさせていた。
 生徒の一人に「最も好きな教科
 は!」と聞くと「中国語です」

と答えて「もつともよく理解が
 出来るし、あたたかい気持ちに
 なります」とつけ加えていた。

学校教育の理想としては、忍耐
 強く美しい花を咲かせる梅、優
 雅な美を誇るシャクヤク、勇敢

に飛び立つ鷹のような人物を育
 てることにあると、教師の一人

は話し、梅・シャクヤク・鷹、
 それぞれの大きな絵が学校の会

議室にかかっていた。

内モンゴルの首都ホフホトより
 西四百キロ離れた伊克昭盟

(イヶジョナイ)の識字教育の
 行われていた教室には一方の壁

にマルクス、レーニン、他の一
 方の壁にはレオナルド・ダ・ヴ



陶氏(左から2人目)にスライド
 贈呈の深崎副団長(右端)

インチ、シェイクスピアの肖像があつて、各々説明がかなり大きな文字で軸になって掲げてあつた。理想的人間像なのであらう。

ここで特に感じたことは、老若を問わず、女性の、客をもてなすすばらしい歌謡であつた。

識字教育と口承による文化の伝達はどういう関係にあるのだろうかと、今も考えている。

日本の26倍の面積を持ち、56の民族から成る中国の人口構成は、教育の面でも深刻な問題をかかえているようである。



〈中国教育国際交流協会常務副会長・李滔氏招宴。前列左から深崎副団長、李滔氏、河合団長、陶西平氏、後列左から末野さん、二人おいて太鼓矢さん。北京・孔膳堂で〉

学校訪問 三校参観

常任理事 太鼓矢晋

上海市・上海中学校

十月十九日午後七時すぎ訪問。夜間中学かと思いきや、国語・数学・英語の統一試験で選抜された中・高一貫教育のエリート中のエリート校。その自習学習の参観であつた。

夕食後、中学生は八時まで、高校生は九時まで、各教室で自由な勉強。よくしつけられた自習自習であつた。生徒数二千名、教師百五十名の大規模校で、創立百二十年余の歴史をもつ。

全員が寮生活。寮費込みで月額七〇元程度。普通、夫婦とも稼ぎで一五〇〜二〇〇元の月収だといふから、その二分の一から三分の一の学費になる。それでも、この学校への入学は両親の荣誉だといふ。

北京市・宣武区

師範学校附属第一小学校

（十月二十三日午前十一時〜午後二時）生徒数千二百名、教師七六名、全日制の重点小学校。三年生から英語を学び、五、六年生でコンピュータ学習を採

り入れているのに驚く。勤勉・正直・元氣向上の校訓が掲げられている。教育実習校であり、教科外でも多彩な学習活動が展開されており、広く国際交流面でもすばらしい実績をあげているとのこと。施設、設備も非常に整備された中国でも有数のパイロット・スクール。校長の馬義秋先生は、昨年、訪日・来広された。

（十月二十五日午前九時から）内蒙古自治区・イキホロ蒙校（内蒙古の首都ホフホト市から南西三六〇キロ、黄河を渡り、砂漠を横切り、途中、橋のかかつていないところは浅瀬を選んで進む。イケジョ盟イキホロ旗成吉思汗陵の近くにある蒙古族のための学校である。

奥地の遊牧民の子どもたちは通学不可能なので六年間寄宿舎生活を送りながら教育を受ける。

近隣の大人の非識字者は、農牧の暇な来春まで識字学級に通う。「字の読める人は読めない人に教えてあげよう！字の読めない人は読める人から教えてもらおう！」と農牧民たちに識字を呼びかけていた。先ずはモンゴル語の読み書きを優先させ、実用技術教育と平行させた自助努力に感激した。当面は、十五歳から四十歳までの四万人の非

識字者に読み書き計算が出来るようは、四十一歳以上の入々の95%の識字率達成が目標だとのことであつた。

識字教室一室の建設費（宿舍付）最低一〇万円（二八〇万円）、移動教室指導のための教師用バイク、中国製一台一万元（二八万円）、テレビ・ビデオデッキ一台三〇〇〇元（八万四千円）。

日本ユネスコ協会連盟が進めている「世界寺子屋運動」の具体的な支援策は、このほかにもいろいろと考えられよう。

内蒙古 幻想記

常任理事 末野 忍

北京空港から内蒙古自治区の首都呼和浩特（ホフホト）まで、中国民航機で一時間半の夜間飛行。時雨に濡れながら空港に降り立つ。ちなみに、呼和浩特市は、わが国が侵略当時、その名を厚和市と呼んだ歴史の痛みを感じた街である。今はモンゴル語で「青い城」という意味の、穀倉地帯に囲まれた人口百万を超える近代都市。宿泊先の内蒙古飯店は十六階建、五五〇床の大ホテルであつた。

わが一行は、上海からずっとお世話になった北京教育局外事處の丁紅字副處長と日本語通訳の范雷さんを含めて八名である。翌日、同飯店の会議室で、楊曼教育副庁長から、自治区の識字活動の現況について説明を受けたあと、現地見学のため二台の車に分乗して伊金霍洛（イキホロ）旗に向かう。蒙古語が堪能な張世徳さんが、同行して



〈内蒙古・伊金霍洛蒙校〉

夜も更けているのに、豪華な一階ロビーで、農牧民教育處の張世徳副處長が出迎えてくださった。一隅に、鮮やかな民族衣裳の娘たちが屯しているのが不思議だった。ソファで一息入れていると、突然鳴り物が入り、彼女らの捧げる酒盃せめにびつくり。それは、遠来の客をもてなす礼儀作法だったのだ。

くだった。全自治区の人口は約二千万人で、辺境の遊牧民は四人に一人が読み書きできないということだ。

工業都市で有名な包頭(パオトウ)市までは、舗装された並木道をひた走る。良質の石炭を満載した幾台ものトラックとすれちがう。包頭市で、黄河に架かる長い鉄橋を渡って南下。忽ちそこは半砂漠と浸蝕丘陵が地肌をさらす、壮大なオルドスの大荒原であった。途中、東勝(トンチョン)というところを経て、伊金霍洛旗まで、全行程およそ三六〇キロ。出迎えてくださった伊克昭(イクジョ)盟教育處の王永誠副處長らの気さくなもてなしに疲れも忘れる。ご馳走は蒙古料理のフルコース。小羊の丸焼が出る頃には、モンゴル娘の民謡聯唱の美声に酔い痴れる。戸外は星空のきれいな夜であった。

翌日、めざす伊金霍洛旗の識字学級の見学をすませてから、卒業生のある家庭を訪問させていただいた。それは、遊牧生活をやめて定居放牧を営み、砂漠化と闘う草原防衛戦士のへ文明戸の姿であった。そのあと、成吉思汗陵拝観という思わぬ附録があった。厳しい大自然ならではの歴史ロマンに想いを馳せ

ながら帰路につく。見渡す限りの荒原に夕陽が静かに沈んだ。

いま思えば、まるで砂漠の蜃気楼のように、幻想の中に身をおいた三日間であった。

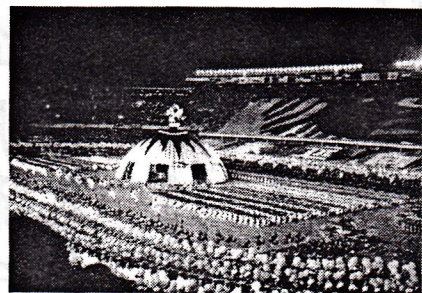
もう再び、この地を踏むことはない別れの朝、ハイネックがよく似合う、楊曼さんが内蒙古

北京アジア大会訪中記

理事 藤森 巖

北京アジア競技大会へ、広島ユネスコ協会は加藤朗一副会長を団長として訪中団を結成し、広島県市体協主催アジア競技大会視察団に加わって訪中した。

この度の訪中団は一九八八年に日中ユネスコ間で締結された友好姉妹関係の協定上のもので



〈開会式のマスゲーム〉

飯店まで見送りにみえた。近づくにつれて、富永直樹オリジナルのループタイに目がいり、何かおっしゃったので、メモ用箋を差し出すと、「歓迎你們有機會再会内蒙古」と書いてくださった。それを、ぼくは大切に胸にしまつて帰国した。

なく、アジア競技大会視察を機に北京市ユネスコクラブと一層の友好と交流をはかるため、特に結団されたものである。

訪中団はアジア大会開会前日の九月二十一日、北京市ユネスコクラブを表敬訪問し、続いて宣武区師範附屬第一小学校と西城区少年宮を参観した。訪問先の長の方々は訪日団として昨年来広されておられ、互いに再見を懐かしみ熱烈歓迎をうけた。

また、北京市ユネスコクラブ陶西平主席の招待晩餐会では、より親交を深めながら両協会の関わりの確かさを誓い合った。

〈主席のスピーチ〉

陶西平主席のスピーチをうけての通訳「……我々の居る教育局は、その昔日本軍憲兵隊の建物でありました」

この言葉に一瞬はっとしたが主席はやさしい眼差しに笑みを浮べて淡々としておられ、波立った気持は落ち着いて。そして、改めて平和ということを考えさせられた。

〈真心・善意の大会〉

北京アジア競技大会の開会イベントは音楽、色彩のハーモニーと立体的構成、ドラマ的演出で唯々すばらしいの一言に尽きるものであった。また、各競技も見事な運営で成果をあげた。

この大成功は単に大会役員の力のみでなく、要所要所での交通整理の奉仕員、ゴミ一つない町に清掃奉仕の市民、タクシ一運転手の心くばり等々と官民一体の真心と善意の力の結果によるものである。

〈師範附小の給食〉

この学校は北京市のエリート校である。われわれ全員感心したことは子どもたちのすばらしい学習態度、特に姿勢のよさである。また眼鏡をかけた子どもはほとんど見かけず、居ても学級に一人位だった。

給食のようすを見学させてもらったが、パン、ソーセージと豚汁の一汁一菜で質素なものであった。肥満児らしき子どもが一人もない教室を後にしながら、「飽食日本! 肥満児!」の

文字が頭をよぎった。

〈少年宮で日本の曲〉

少年宮では、芸能関係の教室が数々設けられ、その道のエキスパートの先生が放課後通ってくる子どもたちを指導し、力を伸ばしている。

民族・西洋音楽の各教室を参観した時、初老の民族楽器の先生やソプラノ歌手の先生は早速に「荒城の月」等の日本の曲を奏で、歌われ、一同感謝感激。加藤団長は「バラが咲いた」を歌われ、和やかに一時の交歓をはかれた。

〈広島ユネスコ協会訪中団〉

加藤 朗一 藤森 巖
上橋 穂留 中原 義光
溝井 敏治 国田 繁
平岡 豊恵 中岡佐登子



〈少年宮花壇を囲んで〉

一九九〇年度総会開く

松原新会長を選出

一九九〇年度広島ユネスコ協

会総会は、六月十六日開かれ、前年度の総括、本年度事業計画を討議、決定しました。また、役員改選では、五年間にわたって協会を発展させてきた河村盛明会長の退任に伴い、松原博臣氏を新会長に選出、また他の役員の一部改編を含めて、承認されました。

〈新役員紹介(※は新任)〉
名誉会長 荒木武
顧問 岡田泰二、沖原豊、古川浩司※河村盛明
会長 ※松原博臣
副会長 加藤朗一、信井正行、深崎敏之

理事

〈教育活動〉常任Ⅱ太鼓矢晋、本家正文。理事Ⅱ上本忠則、溝上泰、※木原亮
〈組織活動〉常任Ⅱ伊東亮三、山崎克洋。理事Ⅱ瀬田洋、水野文隆

〈文化活動〉常任Ⅱ新川貞之、末野忍。理事Ⅱ長迫凱朗、※藤森森

〈国際交流活動〉常任Ⅱ永田龍男、北川健次。理事Ⅱ熊崎賢

三、藤井正一

〈広報活動〉常任Ⅱ亀井章、内田憲至。理事Ⅱ山本隆信、※上橋稔昭

〈平和活動〉常任Ⅱ高橋昭博、古田碩永。理事Ⅱ竹沢臣子、※上田義文

事務局長 (兼務) 信井正行

事務局次長 藤井孝行、国田繁
監事 吉岡尊治、※成田錢雄

魅力ある協会を

会長 松原博臣



昭和五十年十月より約六年間、副会長在任当時、亡き内海巖先生より薫陶を受け、永井滋会長ご夫妻と苦楽を共にした時代を想起しながら、このご挨拶を認めております。

内海先生の真摯なユネスコ活

動は、ヒロシマ国際アマチュア

映画祭の審査にも如実に現われ、先生が第五回映画祭でユネスコ賞に推選された米国バーリントン市在住カリネン氏の作品「ワシントンからモスクワへ」が機縁となり、図らずも今年バーリントン市から、彼地で開催している地球平和映画祭とヒロシマ映画祭との「映画祭姉妹縁組」を提唱してこられたのに、先生との深い因縁を感じております。

当時の会員は四十名弱、その中で青年部の松岡盛人さんや深瀬文恵さんの発言が鮮やかに耳に残っています。青年部はその後、歴代青年部長の目的意識をもった活動で推進されてきました。これからも一層活発化してゆかなければと思っておりますが、同時に、二十九名にまで増えた婦人部の活躍に期待したいと思えます。このことは既に、前回の理事会で、オブザーバーとして複数の婦人会員にも次回理事会よりご参加頂き、婦人部の活性化を図ることとなりました。

本協会の現況を直視しますと、

河村盛明前会長の温かいお人柄と、これを支える事務局長はじめ理事諸氏のたゆまざる努力で、会員も一四三名に達し、先に民間ユネスコ活動世界大会広島大会を成功させ、ここ三年間に日中ユネスコ交流の旗手として北京市ユネスコクラブと姉妹縁組を締結し友好を深めていることは特筆大書すべきで、国際交流サロンの定着と共に、大切な基盤として守ってゆかねばならぬと思っております。

本協会の一段の飛躍と更に魅力ある協会作りに、会員諸氏と手を携えて前進してゆきたいと念じております。今後一層の努力添えをお願いする次第です。

会長辞任にあたって

顧問 河村盛明



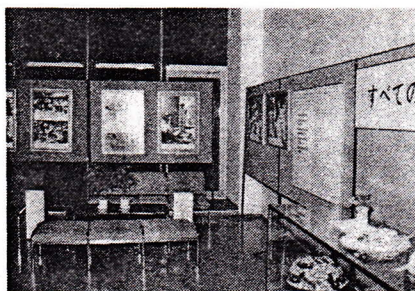
今回、広島ユネスコ協会会長の任を退くことになり、五年間にわたり曲りなりにも大任を果たすことが出来ましたが、会員諸氏の絶大な協力があった

ればこそと感謝しています。

民間ユネスコ世界大会広島会場の開催にあたり、故内海巖先生のご要望もだし難く、ついお引受けすることになったのが始まりで、幾度となく組織瓦解の瀬戸際に立ち、事務局も転々と移動せざるを得なかった事情にもかかわらず、何とかしのいで来ました。その都度「ユネスコをつぶしてはならない」との一点にしばって協会内外の理解と協力を得ました。というのは、それだけ世界平和の規範となるべきユネスコ憲章の精神が今の世にあってなお脈々と息づいている証拠だと思えます。

最近の東西ヨーロッパの融合を初めとする国際情勢の変化を見ても、ユネスコ精神に基づく国際交流の力がいかに大きなものかを、私たちはもともと自信を持って良いと思います。幸い、北京ユネスコ協会との姉妹提携を手がかりに、中国との交流が益々深まり、実りの多いものになりつつあります。それらいろいろな種や芽を見出すことが私の役割であったような気がします。新会長のもとに、これらいくつかの布石をより強力に育てていただくよう、そして協会が一層の発展をされるよう心からお祈りいたします。

パネル展、募金で成果 国際識字年活動進む



国際識字年と定めた国連決議に基いて指導的役割を果たす活動を展開中ですが、改めて、国際識字年の目標を紹介しておきます。

〈国際識字年の目標〉

(1) 非識字問題をかかえる国ぐにが都市スラムや農村で、特に女性や子供を対象とした教育活動を展開すること。

(2) 世論を喚起し、人びとの認識を高めること。

(3) 識字運動に人びとの参加を求めること。

(4) 識字運動で国家間の協力と連帯を高めること。

第25回

国際交流サロン

テーマ 「湾岸情勢を巡って」

講師 広島大総合科学部 吉村慎太郎先生

日時 1月26日（土） 14時～16時

会場 広島市本通り

会費 アンデルセン5階 千円（茶菓代含む）

広島ユネスコ協会では、国際識字年の運動を推進するために広島市内四か所で開催展示会を開催しました。

まず、牛田公民館（写真）で十一月五日からスタートし、安東公民館、広島市立中央図書館、広島市青少年センターで各会場の共催を得て展示、市民、青少年にアピールしました。

また、展示会と並行した募金の呼びかけに対し、ユネスコ会員、市民から八万七千円（12月1日現在）の寄付が当協会へ寄せられています。寄金は今年末いったんまとめてユネスコ協会連盟へ寄託することになります。

ユネスコでは、一九九〇年を

(5) 国連システム内で、さらにすべての政府間・非政府機関の間で協力をはかること。

(6) 二〇〇〇年までに読み書きできない人をなくす行動計画策定のために初等教育段階の中途退学を減らすなど、さまざまな課題を訴えていくために国際識字年を活用すること。

高校生も街に立つ

今年度の広島ユネスコ高校生のつどいは、十二月二日、十八名の高校生（広島大附属高、広島第一女子商高、修道高）が参加して広島大附属高校で開かれました。

午前中、東南アジアからの留学生を囲んで話し合いをした後コアクション活動の一環として午後一時から四時まで、広島市紙屋町の百貨店前で「2000年までにすべての人びとに文字を」の横断幕を掲げて募金活動を行いました。当日の募金は三万八千三百三十四円でした。

東広島へ、どうぞ

中国五県のユネスコ会員が、各地域での活動の成果や問題を持ち寄って交流し、また交歓す

る一九九〇年度中国ブロック・ユネスコ活動研究会が来年一月十九（土）二十（日）日、東広島市西条グラウンドホテルで開かれます。

研究会は、ユネスコ活動のいっそうの活性化をはかるためにユネスコの今日的課題、地域における活動の方向を協議するも

中国、広島見たまま 留学生迎え報告会

去る十二月一日、「日中交流の集い」がKKR広島で開催されました。この集いは、第一部として第二十四回国際交流サロン、第二部として日中交流懇親パーティを内容としたものです。中国からの留学生六名を交えて、熱気あふれる催しとなりました。

国際交流サロンでは、さきに中国を訪問したアジア競技大会開会式視察を兼ねた訪問団を代表して、加藤朗一副会長が、また、北京ユネスコクラブとの交流計画に基く訪中団を代表して、深崎敏之副会長が、それぞれ視察報告を行いました。

続いて、中国人留学生の方青さん、苑復杰さんに「中国人留学生の見た広島」と題して、ヒロシマの問題や、アジア競技大

ので、毎年、中国各地のユネスコ協会の持ち廻りで開かれています。内容も講演、交歓会など有意義でまた楽しいプログラムが用意されています。

日程は土曜日午後から日曜日午前中まで、宿泊費は四千五百円。現在、参加者を募集しています。詳細は事務局へ。

会広島大会成功のための提言などをうかがいました。約六十名の参加者もそれぞれのスピーチに熱心に耳を傾けていました。続いて聞かれたパーティでは、約四十名の会員と六名の留学生との間で、和やかな交歓が行われ、相互理解、民際外交の面で、意義ある交流会となりました。



「拡がる眼」 国際交流サロン

広島ユネスコ協会の定例文化行事「国際交流サロン」がスタートして丸三年、その回数も24回を迎えるまでに定着、発展してきました。

サロンの原則として月一回、第三土曜日午後二時(二時間)会場は広島市本通りアンデルセン(会費は茶菓代を含めて千円)となっています。

本年四月以降の国際交流サロンの経過は次のとおりです。

なお、当協会では、国際交流サロンのほか、文化講演会を年一回開催しており、本年は「現下の国際情勢をいかに見るか」(国立京都国際会館橋正忠館長)Ⅱ会場は広島市国際会議場Ⅱを開催しました。



▼第20回・5月19日Ⅱ「アジアにおける工業化」Ⅱ富士ゼロックス事業部長岩部潤三氏
▼第21回・6月16日Ⅱ「広島・カナダ・モントリオール」Ⅱ広島ホームテレビ開発部長田中勝邦氏

▼第22回・7月21日Ⅱ「転換点に立つタイの政治と経済」Ⅱ広島大学総合科学部講師山尾政博氏
▼第23回・10月20日Ⅱ「IP PNW(核戦争防止国際医師の会)と新しい国際情勢」Ⅱ木村クリニック院長木村進臣氏

▼第24回・12月1日Ⅱ「日中交流の集い」(詳細は別項)
▼第25回・1991年1月26日Ⅱ「湾岸情勢を巡って」Ⅱ広島大学総合科学部専任講師吉村慎太郎氏

ペアセロベ

賑やかに

十月二十八日秋晴れの中、中央公園で恒例のペアセロベ(P

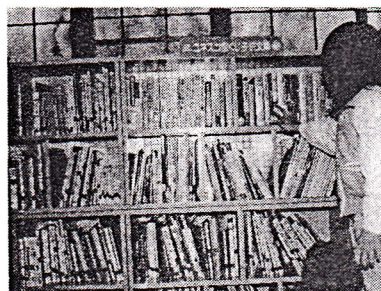
EACE LOVE)が開催されました。
広島ユネスコ協会ではわら草履づくり、折紙、凧づくりをモトデに店を開きました。
外国からのお客様が入れかわり立ち寄られて、賑やかな風景が展開されました。



ユネスコ百冊の本

たけのこ文庫へ

国際児童年の一九七九年以来、ユネスコ協会連盟は、毎年「百冊の本」を国内の子供文庫に贈り続けていますが、今年は広島地区で「たけのこ文庫」(安佐南区西原、代表藤村美千枝さん)が選ばれ、先ごろ、広島ユネス



コ協会を通して「百冊」の図書が同文庫に贈られました。
贈呈式には児童、母親約三十人が出席、広島ユネスコ協会信井正行副会長が「ユネスコ・ライブラリー100」の趣旨と図書の活用を促す挨拶を述べました。
贈られた本の内容は、「エーミールと探偵たち」などの物語や自然観察記など主に小学生を対象にしたもので、本の背には「ユネスコ・ライブラリー100」のシールが貼られています。
「たけのこ文庫」は、地元有志から提供された民家へ親子のために作られた集会所の一角に設けられ、土、日曜日は子供の「小さな図書館」として賑わっています。
なお、「百冊の本」の贈呈は全国からの応募により、二五〇カ所の「文庫」、保育所を選定して、毎年贈られています。

帝釈小へ

スライド贈る

先の訪中団が北京市ユネスコクラブに資料として贈ったスライド「山鳥、海を渡る」(27分)の日本語版を当協会代表が、十一月二十六日、比婆郡帝釈小学校を訪ね、プレゼントしました。
当日は保護者参観日で、三十一人の全校児童、保護者、教員が作品を観賞。同校と中国盤錦小の愛鳥活動を通しての友好活動の記録に改めて自然保護の大切さと国際交流の意味について心を動かしている様子でした。



(スライドを観る帝釈小児童)